論壇

高校生は英語外部検定試験回過についてどれほど知っているのか (大学入試改革を高校生の視点から眺めてみる)

奥山 則和 A

1 はじめに

教育改革の一つ、大学入試において英語の4技能(聞く・話す・読む・書く)を測ろうという試みが次のように始まっている^[2]。

表 1 大学入試における外部英語検定試験利用状況

一般入試 推薦·AO入試 全体
2016年度 6.6% (50大学) 36% (271大学) 764大学
2017年度 14% (110大学) 41% (314大学) 764大学
2018年度 19.9% (152大学) 44% (335大学) 764大学

- ① 大学入試で英語外部検定試験を利用している大学 は、旺文社の調査^{[3]7-9)}による3年の推移を見ても確 実に増加している(表1)。
- ② 国立大学協会は『平成32年度以降の国立大学の入学者選抜制度-国立大学協会の基本方針-』100の中で「国立大学としては…認定試験44を『一般試験』の全受験者に課す」と発表した。
- ③ 英語外部検定試験を活用している大学が集まって 議論する「TEAP連絡協議会」(日本英語検定協会 主催) ¹¹⁾では、次のような発表があった。(1)どの ようなシステムで活用し、どの程度の受験者があっ たか。(2)そのような試験を利用して入学した学生 が、他の学生と比べて成績がどうであったか^[5]。こ れらの発表にあるように、英語外部検定試験の利用 に関し、大学はノウハウや、それにはメリットがあ ることも共有し始めている。
- ④ 英語外部検定試験は次のような外圧としての役割が期待できる[6]12]。(1)アクティブラーニング型授業の波及に伴い、改善傾向にあるとはいえ、講義調の

授業に終始し、実用性の伴わない英語指導を続けている高校の授業を変えさせる。(2)アクティブラーニングが高校以下で進み、講義調の授業を続けられないと危機感を感じている大学教員の授業を変えさせる。

今後、英語外部検定試験利用が国公立・私立大学で増えることは必至の情勢だ。

以上の議論で顔が見えなくなっているステークホルダーは、大学受験生である。リンガフランカとしての英語で異文化の人とコミュニケーションが取れ、グローバル人材となる可能性のある者たちだ。その彼らは、大学入試の英語外部検定試験に関して、どれほど知っているのか。筆者は、この春大学入試を受験した生徒約1,000人を対象に、彼ら・彼女らが受験体制に入り始める頃の2016年10月22日にアンケートを行った。

2 本校の英語教育

桐蔭学園は、昭和39年(1964年)に男子校の高等学校として開校した。今では、幼稚園から大学院まである。中等教育機関としては中学校・高等学校男子部、同女子部、中等教育学校(男子校)の3部署から成る総合学園である。在籍全生徒が大学進学を目指す進学校の本校は、次のような英語環境にある。

- ① 最寄りの駅から学校へは公共バスを利用して通う。 そのバスの中には『週刊ダイヤモンド』¹³の広告が 必ずある。この週刊誌はビジネス誌であるが、定期 的に英語学習や大学に関する特集を組んでいる^[7]。 生徒は、日常的にその広告を目にする環境にある。
- ② 各種検定試験を受けやすいような支援をしている。 本校では、小学 1 年生から英語教育を行い、小学 部から英検は団体受検している。英検は、内容や取 得級から想定される実力までの理解を、保護者、生 徒、教員が共有している。このことから、本校の軸 となる検定試験である。
- ③ TOEIC の実施団体である IIBC®の賛助会員にな

A:学校法人桐蔭学園グローバル教育センター

っている。本校は習熟度別制を採用している。中学 男子部以外すべての部署に帰国子女を対象とした 英語の特別クラスがあり、そのクラスに所属する生 徒 (例年 150 名弱在籍) は TOEIC SW 試験を受検 している。

- ④ 中等教育学校後期課程の帰国子女特別クラスに所属する生徒は、TOEFLの教材を用いてアカデミック英語のトレーニングをしている。
- ⑤ 英語最上位者には IELTS^{[9]14)}の団体受検の場を提供している。事前無料対策講座も実施している。
- ⑥ 同じキャンパス内にある大学は、英検およびTEAP の公開試験会場となっている。
- ⑦ ②~⑥の環境をより多くの生徒に理解してもらえるように、**図 1** のポスターを高等学校・中等教育学校後期課程のすべての教室に掲示し、啓発もしている。

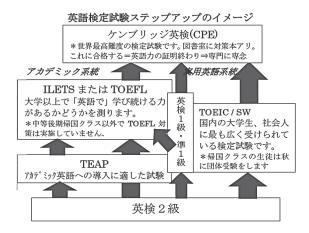


図1 本校で掲示されているポスター[10]

3 大学入試までの大まかな流れとアンケート

大学受験へ向けて生徒は、高校1年から2年への進級時に文系・理系の選択をする。そして高校2年の後期に「受験生宣言」をする。高校2年の夏以降、順次大きな大会ごとに部活、特に運動部に所属する生徒たちは引退していく。この頃から教員は、大学受験を意識した生徒への接し方が色濃くなる。高校3年生になると、「第1志望宣言」というものを行い、それに保護者の署名をもらうことで、生徒には自身の選択に責任を持たせるよう工夫している。[11]

このような大学入試への流れのなか、受験体制に入り始める頃の 2016 年 10 月 22 日に、本校に在籍する高校 2 年生・中等 5 年生全員を対象に、 $\mathbf{表}\mathbf{2}$ にあるア

ンケートを実施した。回答数 932 件(在籍数 1,054 名) の内、回答内容に矛盾のない 810 件¹¹²に関し、その内容を調べた(表3)。受験体制に入り始める頃とはいえ、まだ部活を続けている生徒がいたり、志望大学や学部についてイメージが明確になっていなかったりする中でのアンケート実施である。

なお、この 2016 年度とは、GTEC CBT リリースより 3 年目、TEAP 実施 3 年目、TEAP CBT 導入年であり、英検 2 級が 4 技能化された年度である。

表2 アンケート内容

①以下のリストの中から、知っている検定試験をすべて選んでください。
 A 英検
 B GTEC CBT
 C TEAP
 D TOEIC・TOEIC SW
 E TOEFL
 F ケンブリッジ英検
 G その他(

②以下のリストの中から、受検したことのある検定試験をすべて選んでください。
A 英検 B GTEC CBT C TEAP D TOEIC・TOEIC SW E TOEFL F ケンブリッジ英検 G その他(

③大学入試で、英語検定試験の結果が利用できる場合があることを知っていましたか? A はい B 興味がない C いいえ

④大学入試で、活用できることを知っている検定試験を、すべて選んでください。
 A 英検
 B GTEC CBT
 C TEAP
 D TOEIC・TOEIC SW
 E TOEFL
 F ケンブリッジ英検
 G その他(

⑤検定試験には、パソコンで受ける CBT 版と紙ベースで受ける従来型の試験とあることを知っていましたか?
A はい
B 興味がない
C いいえ

⑥CBT と紙ベースと、受けるならばどちらがいいですか?

A CBT B どちらかと言えば CBT C 興味がない D どちらかと言えば紙ベース E 紙ベース

⑦⑥の回答をそのように選んだ理由は、なぜですか?

表 3 回答数内訳

在籍:1,054名

内 訳:中等教育学校:162名

理数科: 男子233名 · 女子148名=計381名 普通科: 男子379名 · 女子132名=計511名

回答数:932件

内 訳:中等教育学校:136件

理数科: 男子212件 *女子138件=計350件 普通科: 男子327件 *女子119件=計446件

有効回答数:810件

内 訳:中等教育学校:129件

理数科: 男子189件·女子124件=計313件 普通科: 男子258件·女子110件=計368件

4 アンケート結果の分析

アンケート結果の分析は、5 グループに結果を分けて行った。そのグループ分けとは以下の通りである。

①全体

②英検準2級以上取得者

③中等教育学校

④理数科 ⑤普诵科

全体とは別に、実際に大学入試で検定試験を活用で

きる実力を備えていると判断できる、高校2年生の第1回までに英検準2級以上を取得した(とアンケートに答えた)生徒について分析した。また特進コース扱いとなる中等教育学校や理数科[13]の生徒たちが、一般クラス扱いでありスポーツ推薦で入学した生徒も在籍する普通科の生徒たちに比べて、検定試験に関する受検経験や知識について差があるかについても分析した。

表4にあるように、どのグループでも英検の認知度 100%というのは、本校の英語教育環境から当然の結果である。英検の次に認知度が高いのは、TOEIC(89%) と TOEFL(64%)だ。TEAP は、特進の中等・理数で、 普通科に比べて若干高くなっている(全体65%・中等 65%・理数科77%・普通科54%)。

先に述べたように、生徒たちはバス内で定期的に英語が特集されるビジネス誌の広告を見る機会や、自分たちが日常を過ごす教室で英語の資格試験について説明をするポスターを目にする環境にある。しかし、そのポスターに記載されている資格試験すべてが認知度100%ではない。アンケートの回答者である生徒が、試験の内容を知らないために選ばなかった可能性がある。生徒たちが英検2級(図1でいう英検以外の試験を受けるに足る英語力)にまだ届いておらず、ポスターの内容がまだ自分には関係のないものであると思っている可能性もある。

中等教育学校では、GTEC CBT の認知度が高等学校に比べて高いが(全体 17%・中等 79%)、それは表 5 の受検経験から説明できる。アンケートに答えた中等 5 年生たちは、中等 3・4 年と 2 年連続で(旧称)GTEC for Students(GfS)[14] 15)を団体受検してきた。彼らの中に、GTEC CBT を受検した者はいない。それでも受検したことがあると答えた生徒が 52%も出たのは、GfS を CBT であると誤っての認識である。また、GfS ではタブレットを用いた面接試験を実施しているので、そこで CBT であったと勘違いした生徒もいると考えられる。

その表 5 では、全体の英検受検経験者が 94%であった。本校では、年 3 回実施される英検はすべて受検の手続きが校内ででき、2 級までは校内で受けられる。特に中学(中等教育前期)段階では、年度内に 1 度も英検を受検しようとしない生徒には、担任から事情を訊かれる。また各学期の成績会議では、何%の生徒がどの級まで取得できているかを、全ての学年で必ずチ

ェックする。受検経験がないと答えた生徒は高等学校のみなので、そのほとんどの生徒は高校から本校に入学した生徒の一部であるのは確かだ。しかし、本校は高校入試でも英検準2級取得者には利点がある高校入試制度[15] 16)を整備している。それでも受検体験がある生徒が95%を割る結果が出ていることは、英検を推している側の筆者からすると驚きである。

本校では帰国子女特別クラスに在籍している生徒と、受検を希望する他クラス在籍の生徒には、TOEICSW 試験を年に1回受けさせている。目的は、以下の2点 だ。

- ① 英語力の上位にある生徒たちに、同じ物差しの試験を受けさせて、英語力の伸長をスコアで観るため。
- ② 英語の言葉遣いが稚拙な者が多い生徒たちに、電話での苦情処理や役所へのメールといった大人の 文脈で英語を使用する機会を与えるため。

例年各学年に 30 名程度、該当する生徒がいる (この学年は高 1 時に 29 名が受検、高 2 時の団体受検はアンケート後)。810 名中 44 名が受検経験があると回答しているので、帰国子女以外で TOEIC を受けているのは、15 名ほどであることが読み取れる。

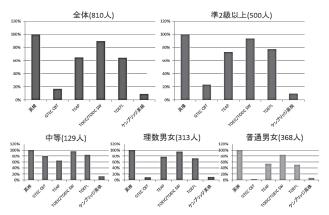
若干名の受検ということであれば、TOEFL (810 名中 20 名) も同じである。学校として団体受検のサポートをしていないのにもかかわらず、TOEIC よりも自ら希望して校外で受検した数が多かった。

アンケートに答えたのは進学校を標榜する学校に在籍する生徒たちである。表6にあるように、大学入試で英語の検定試験が使えるという事実を知らないという生徒はどのグループでも少ない(810 名中 32 名・各グループ 3~5%)。

表7は、どの検定試験が大学入試で活用できるかについて、生徒たちがどれくらい知っているかを表している。英検が圧倒的に認知され(全体で82%)、ついでTOEIC(全体で50%)・TEAP(全体で48%)となり、その二つとは少し離されてTEOFL(全体で26%)となっている。

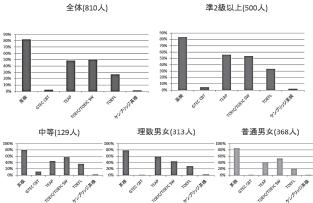
最近導入が進む CBT という形態に関しては、どれほど認知が進んでいるのであろうか (表 8)。全体的に、知らないと答える生徒が多い(79%)。タブレットで面接試験を受検したことのある中等教育学校の生徒の方が、より CBT を認知しているように見える (「はい」の回答:中等32%・理数科25%・普通科15%)。

表4 知っている検定試験について



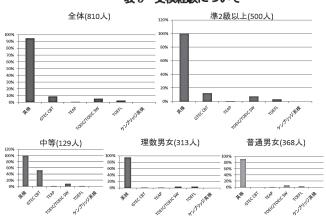
*他に IELTS:10·SAT[19]:4·観光英検[19]:1・国連英検[19]:6(単位:件)

表7 どの検定試験が入試で使えるかについて



*他に IELTS: 3 · SAT: 1(単位:件)

表 5 受検経験について



*他に IELTS: 2・SAT: 1・国連英検: 1(単位:件)

表8 CBTという試験を知っているか

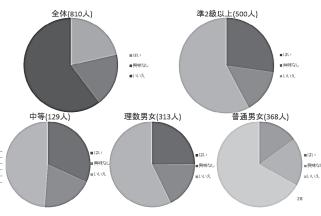
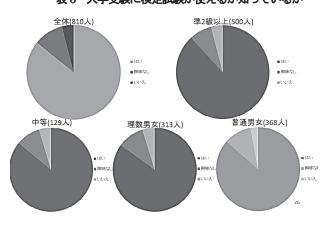


表 6 大学受験に検定試験が使えるか知っているか



*本ページにある「他に」はすべて全体(810人)中の件数

表9 CBTと紙とどちらで試験を受けたいか



表 10 CBT 版と紙での試験に関するコメント

CBT	紙
• 楽、書くのが面倒35	• 馴染みがある154
マークミスが減る 6	パソコンが嫌だ113
・パソコンの方がいい 7	CBTがよくわからない 20
自宅受検ができる 4	• 活用できるのが上智のみ
TOEFLを目指している	CBTは書き込みができない
• 興味がある	振り返りの学習がしたい
パソコンにはロマンがある	なんでもデジタルという風
• 紙より当たりそう	潮はよくない
パソコンは目が痛くなる	予備校で経験してよくできなかった

「紙と CBT 版とどちらで試験が受けたいか」という問いには、約過半数の生徒が紙の方がいいと答えた(表 9)。生徒が特に ICT に特化して何かを実施している学校ではない[19]ため、普段から使っている紙の方が馴染みがあるようである。若干名ながら CBT 版に興味を持つ生徒もいた。

表10は、「CBTと紙ベースと、(試験を)受けるならどちらがいいですか」という質問に対する自由記述の回答を整理したものである。紙を志向する生徒が「CBTはよくわからない」と答えていることと、CBTを志向する生徒の「マークミスが減る」というのは、CBTという試験がよく分かっていないという点で同じである。「なんでもデジタルという風潮はよくない」や「パソコンにはロマンがある」「紙より当たりそう」という意見は、イメージ先行である。

CBT という試験の性質を理解した上でのコメントは「TOEFLを目指している」「活用できるのは上智(大学)のみ(TEAP CBT を指すと思われる)」「CBT は書き込みができないから」「予備校で(CBT)を経験してよくできなかった」の4点である。

今後の大学入試では、論述問題が増えるなどより多くの情報量を捌かなければならないということで、 CBT の導入も検討されている。今回のアンケート結果からは、CBT の導入には啓発活動が必要であることがわかる。

5 大学入試で検定試験を活用することについて

さまざまな検定試験がある。筆者は、生徒たちが自 分の英語力を確認しながらステップアップしていける ようなポスターを用意したりして、英検以外の検定試 験の団体受検の機会を整備している。その立場から、 大学入試で英語外部検定試験を活用することについて、 4点論じる。

5.1 試験間の整合性

アンケート対象の一つ上の学年で、センター試験の 英語(筆記)の得点と、英検取得級との相関を調べて いる。2017年1月のセンター試験で同問題は、全国 で529,688名が受験し平均点は112.43点であった²⁰⁾。

表 11 からわかるように、英検取得級が高いグループほどセンター試験の得点は高い。

表 11 2017 年センター試験得点と英検取得級の相関

4± = ¬	学園全体					
筆記	全体平均:142.3点/受験者数:728人					
英検	センター平均	受験者数				
準1級以上	190.3	40				
2級	168.5	256				
準2級	132.4	245				
3級以下	106.7	144				
未受験	117.0	43				

表 12 は、「4skills.jp」²¹⁾が掲載している 2017 年度 の CEFR と各検定試験との対照表である。各試験それ ぞれが CEFR のレベル表記とどのように相関関係が あるかを示している。しかし、それがこの表の意図ではないとはいえ、この表で見えてしまう各試験間の相 関関係には、筆者は納得していない部分がある。

表 12 CEFR と各検定試験の対照表

CEFR	Cambridge English	英検	GTEC	GTEC CBT	IELTS	ТЕАР	TEAP CBT	TOEFL iBT	TOEFL Junior Com- prehensive 2016年12月末 販売終了	TOEIC L&R TOEIC S&W
C2	CPE (200+)				8.5 9.0					
C1	CAE (180~199)	1級 (2630~3400)		1370 1400	7.0 8.0	400	800	95 120		1305-1390 L&R 945~ S&W 360~
В2	FCE (160~179)	準1級 (2304~3000)	1190 1280	1160 1369	5.5 I 6.5	334 399	600 I 795	72 94	341 352	1095-1300 L&R 785~ S&W 310~
В1	PET (140~159)	2級 (1980~2600)	960 1189	880 1159	4.0 5.0	226 333	420 595	42 71	322 340	790-1090 L&R 550~ S&W 240~
A2	KET (120~139)	準2級 (1728~2400)	690 959	510 879	3.0	150 225	235 415		300 321	385-785 L&R 225~ S&W 160~
A1		3級-5級 (419-2200)	-689	-509	2.0					200-380 L&R 120~ S&W 80~

先述の通り、本校では主に帰国子女を対象にTOEIC SW 試験を毎年団体受検させている。受検者数は、毎年100名強である。そのスコアを見ると、英検1級(CEFR・C1)をすでに取得しているだけでなく、その中でも上位にいる者がようやくCEFR・B2に匹敵するTOEICのスコアを出している。英検・TOEIC 双方でC1を達成した者は、毎年3名程度しかいない(平成27年度3名、平成28年度4名、平成29年度2名)。B2に相当する英検準1級の取得者で、前述のカテゴリーに入らない生徒の中にTOEICでB2を達成した生徒はいない^[20]。

以上表 11・12 から論じた以上の現象は、当然のことである。

日本の学習指導要領に沿って出題されるセンター試験と英検に相関があるのは当然だ。

TOEIC は、そういうことをまったく考慮せずに出題されている。同試験はビジネス英語の基礎力がどれほどあるかを測るための試験である。(校則でアルバイトが禁止されていて)試験が想定するような社会経験が足りていない生徒たちが、英検と同じように力を発揮するようなものではないと筆者は認識している。

本稿執筆時、日本英語検定協会は、複数の4技能型外部英語検定試験を受検したことのある高校3年生を対象に、有償でスコア提出の協力を呼び掛けている20。これは上で問題視している点について、英検協会が把握をし、調査を始めている証拠である。このような調査が進み、いまある相関表がより日本の生徒の実情を反映したものになることを望んでいる。

5.2 4技能をバランスよく伸ばす高大接続について

大学入試では4技能型の検定試験が使用は増加している。アンケートの結果から、大学入試を突破しようと思っている生徒たちに4技能をバランスよく伸ばしてもらいたいというメッセージは伝わっている。

大学入学後、学生が4技能をバランスよく伸長しているかをどれだけの大学が調べているのであろうか。

本学会の賛助会員であり試験実施団体である会社 (IIBC・CIEE^[21])に所属する方々との情報交換によると、多くの大学で TOEIC LR または TOEFL ITP とリスニング・リーディングの 2 技能の試験を課している。大学入学時の英語のクラス分けなどで使用されているケースが多いようである^[22]23]。筆者が知る限り、

大学入学後も4技能の試験を体系的に学生に課しているところは、入学後のクラス分けと1年後の伸びを測るためにTEAPを実施している上智大学のみである。

大学という場所は、学生が自身の専門を学び始める場所である。多くの学生にとって英語は道具であり、彼ら・彼女らにとって大学は英語力自体を伸ばすために勉強するところではない。しかし、大学入学後も英語を学び続け、英語を使ってより正確に論文を読みこなし、より正確に自分のいいたいことを発表し、論文に書けるように研鑽を続けていくことは必須である。

本学会の大会で、大学で学生の英語力を伸ばす試みが発表されている。加えて大学側に、「高校生に 4 技能をバランスよく伸ばすよう求めるのであれば、大学入学後にそういった者がどのように 4 技能をそれぞれ伸ばしていくのか経年で調査してほしい」と提案する。

5.3 受検期限つき外部英語検定試験について

文部科学省によると、2020年度大学入試より変更される大学入学共通テストで大学入試センターが各大学に提供する受験生の外部英語検定試験の成績は、2019年4~12月に受検したものに限られるようである²⁴。これはナンセンスとしかいいようがない。なぜ期限付きなのか。

本稿で紹介したアンケートに答えた生徒の中には、例えば本校入学前にすでに英検1級に合格している生徒もおり、早い場合は小学校6年生から英検1級を受け始めたケースもある。また、中学入学後本格的に英語の勉強を始めたものの、高校1年時に英検1級に合格し、2年夏にIELTS総合バンド7.5達成後、その年末にはケンブリッジ英検 CPEI図にB合格した者もいる。現在公表されている制度では、こういった生徒は、再度高校3年生になった時点で検定試験を受検しなければ、自身の英語力のアピールができないことになる。

このような稀なケース以外にも、受検期限をつけると次の事態が想定されうる。それは、高校入学後の英語検定試験の受け渋りだ。英語力が大事であるという認識だからこそ、大学入試で検定試験の結果を活用できるようにしているはずである。しかし、高校生活では、「高校3年生のときのスコアしか意味がない」との認識で、検定試験の受検を控え、結果として在学中の英語力の伸長が測りにくくなるのであれば、本末転倒である。文部科学省には受検期限について再考を促し

たい。

5.4 CBT の認知度について

アンケート結果に反映されている通り、CBT の認知 が低すぎる。本格導入を目指すのであれば、啓発努力 が今まで以上に必要となってくる。

6 終わりに

高校で英語を教えている側から、高校生がどの程度 英語外部検定試験について知っているかの調査を通じ て、次の4つの提案をした。

- ① 試験間の整合性を
- ② 4 技能をバランスよく伸ばす大学の調査を
- ③ 外部英語検定試験の受検期限の再考を
- ④ CBT の啓発活動を

本学会がさまざまな大会で確認してきた通り、英語ができるからグローバル人材であるとは限らない。しかし、リンガフランカとしての英語で異文化の人とコミュニケーションが取れるということは、グローバル人材として必要な素養である。現在行われている大学入試改革の議論を進めていく上で、本稿の内容が少しでも役に立てば幸いである。

注

- [1] 英語の4技能(聞く・話す・読む・書く)を測る試験 のこと。本稿では、資格試験、検定試験、外部試験と いう表現も同じものを指す。本稿に出てくるアンケー トでは、以下の検定試験について調査した。
 - 実用英語検定試験(英検)
 - Global Test of English Communication Computer Based Testing (GTEC CBT)
 - Test of English for Academic Purposes (TEAP)
 - ・Test of English for International Communication (TOEIC・Listening & Reading{LR}、Speaking & Writing{SW}という2種類のテストがある)
 - · Test of English as a Foreign Language (TOEFL)
 - ・Cambridge English (ケンブリッジ英検) なお本稿では、読みやすさを考えて、大学入試に関し ては「受験」、検定試験に関しては「受検」と記して
- [2] 本稿は高校生の英語外部検定試験の認識度について 論ずるものであるので、大学入試改革の詳細について は割愛する。
- [3] 旺文社教育情報センター調べ。
- [4] ここにいう「認定試験」とは「大学入学共通テスト」で活用される外部検定試験のこと。
- [5] 2017年12月8日に立教大学で第8回協議会が行わ

- れた。金沢大学は、外部資格試験のスコアを変えたことで、外部試験を利用する受験者が前年度より増えたことを発表した。また早稲田大学戸山キャンパスの2学部は、外部試験利用で入学した学生と、それ以外の学生との入学後の成績を比較し、前者の方が英語及び第二外国語の成績がよいこと、それ以外の科目で両者に差が見られないことを発表した。
- [6] このようなことは、さまざまな英語教育に関する勉強会で言及されている。例えば、2016年12月26日に上智大学で開催された英検協会主催の英語教育セミナー「大学入試改革を踏まえた新しい英語教育の方向性」では、このような趣旨の発表が主だった。
- [7] 本稿で紹介されるアンケートのあった 2016 年には、以下のような特集があった。
 - ・「塾・予備校一入試改革で先手を打つ! -」(3月5日号)
 - 「関関同立-関西に君臨するトップ私学を完全解剖 -」(9月24日号)
 - ・「商社の英語ー門外不出のサバイバル習得法ー」(12 月 10 日号)
- [8] IIBC (The Institute for International Business Communication・国際ビジネスコミュニケーション協会)
- [9] IELTS (International English Language Testing System)
- [10] 例えばTEAPは英検準2級程度の実力があれば受検が可能であるが、日本英語検定協会も、TEAP受検に関して問い合わせがあった場合は「まず英検2級に受かりましょう」と勧めている。なお、このポスターは試験実施団体に勤める方々にもご覧いただいているが、内容がおかしいと反論されたことはない。
- [11] あくまでも大まかな流れである。大きな学校であり、 学年主任ごとの判断で「受験生宣言」や「第一志望宣 言」扱いや順番が異なる場合がある。典型的な「受験 生宣言」では、紙の絵馬に自分の目標を書き、それを 教室掲示する。こうすることで、部活中心であった生 徒も勉強中心になるいい契機となっている。「第一志 望宣言」は、保護者へ自分のキャリア志向を説明する ことで、自身の選択に責任を持たせる狙いがある。
- [12] ここでいう「矛盾」の例として、①で知っていると答えていない検定試験に関し、②や③で受検したことがある・または大学入試で活用できると知っていると答えたもの、というものがある。
- [13] 厳密にいうと、桐蔭学園高等学校女子部は普通科のみで、理数コース・普通コースに分かれている。しかし、前者が中等教育学校や男子部理数科と伍していくコース、後者が男子部普通科に相当する多様性のあるコースであるのは確かであり、ここでは議論をスムーズに進めるためにも本文中にあるような区分けとしておく。
- [14] 2017 年度に改称された。本試験も大学入試で活用されている外部試験の一つではある。本校では基本的に同試験の団体受検を行っておらず、また同試験で測れる英語力は英検でも測れるために、アンケートからは割愛した。

- [15] 本校では、推薦入試や書類審査のB方式にて、英検 準2級程度の英語の資格を持つ受験生には、出願に必 要な評定点が1点低くなる優遇制度がある。
- [16] SAT (Scholastic Assessment Test) はアメリカの大学入学に考慮する要素の一つで、英語検定試験ではない。しかし、本校ではこれを外部検定試験として受検したとアンケートの答えた生徒がいた。
- [17] 観光英語検定(これも外部検定試験ではない)
- [18] 国際連合公用語英語検定試験(これもまた非外部検定試験)
- [19] 本校では、全教室に電子黒板またはプロジェクターが設置され、中学・中等教育学校前期課程に在籍する生徒全員に iPad が貸与されている。しかし、本アンケート回答者である生徒が IT 機器を使う機会は少ない。
- [20] 母体の少ないデータなので、詳細を提示することは 避けたい。しかし、大人の語彙・文脈でテストされる TOEIC で C1 というレベルを達成することが、高校 生以下にとって難しいことは感じていただきたい。
- [21] CIEE (Council on International Educational Exchange・国際教育交換協議会)、TOEFL テストの実施団体。
- [22] 本学会で横川が発表してきたように、大学によって は英語の資格試験の成績を進級要件にしているとこ ろもあるが、これも2技能での選考となっている。
- [23] CPE (Certificate of Proficiency in English)

引用・参考文献

- 英検の詳細については、以下のサイトを参照のこと。 http://www.eiken.or.jp/eiken/
- 2) GTEC CBT の詳細については、以下のサイト参照。 https://www.benesse-gtec.com/cbt/
- 3) TEAP の詳細については、以下のサイト参照。 http://www.eiken.or.jp/teap/
- 4) TOEIC の詳細については、以下のサイト参照。 http://www.iibc-global.org/
- 5) TOEFL の詳細については、以下のサイト参照。 https://www.cieej.or.jp/toefl/
- 6) Cambridge 英検の詳細は、以下のサイト参照。 http://www.justycom.jp/cambridge02/main-suite.ht ml
- 7) 旺文社教育情報センター. (2016). 平成29年度入試英語外部検定利用状況【推薦・AO編】英語外部検定利用大学が大幅に増加!-8割以上が英検準2~2級レベルを求める-. 東京: 旺文社.
 - http://eic.obunsha.co.jp/resource/pdf/exam_info/20 16/1110_1.pdf
- 8) 旺文社教育情報センター. (2017). 平成30年度入試 英語外部検定利用状況【推薦・AO編】英語外部検定 利用大学が3年連続の増加! - 文系・理系を問わず 英語力の優遇広がるー. 東京: 旺文社.
 - http://eic.obunsha.co.jp/resource/pdf/exam_info/2017/1016_2.pdf
- 9) 旺文社教育情報センター. (2017). 平成30年度入試 英語外部検定利用状況【一般入試編】英語外部検定

- 利用大学は前年比4割増の152大学!ーすべての学問系統で利用率アップ!ー. 東京: 旺文社.
- http://eic.obunsha.co.jp/resource/pdf/exam_info/2017/1207_1.pdf
- 10) 国立大学協会. (2017). 平成 32 年度以降の国立大学の入学者選抜制度 国立大学協会の基本方針 —. http://www.janu.jp/news/files/20171110-wnew-nyushi1.pdf
- 11) 日本英語検定協会. (2017). 第8回TEAP連絡協議会. https://www.eiken.or.jp/teap/info/2017/pdf/teap_re nraku 201712.pdf
- 12) 日本英語検定協会. (2016). 大学入試改革を踏まえた新しい英語教育の方向性. https://www.eiken.or.jp/eiken/group/info/pdf/20161 228 seminar tokyo.pdf
- 13) ダイヤモンド社ウェブサイト. 週刊ダイヤモンド. バックナンバー掲載ページ. http://dw.diamond.ne.jp/ud/latest から「2016年」 を選択
- 14) IELTS の詳細については、以下のサイト参照。 http://www.eiken.or.jp/ielts/
- 15) 旧称 GTEC for Students・現 GTEC の詳細については、以下のサイト参照。 https://www.benesse-gtec.com/fs/about
- 16) 学校法人桐蔭学園. (2017). 桐蔭学園高等学校 平成 30 年度 (2018 年度) 生徒募集要項.
- 17) SAT の詳細については、以下のサイト参照。 https://collegereadiness.collegeboard.org/sat
- 18) 観光英検定の詳細については以下のサイト参照。 http://kanko.zgb.gr.jp/
- 19) 国連英検の詳細については、以下のサイト参照。 http://www.kokureneiken.jp/
- 20) 大学入試センター. (2017). 平成 29 年度大学入試センター試験 (本試験) 平均点等一覧. 平成 29 年度大学入試センター試験実施結果の概要. http://www.dnc.ac.jp/albums/abm.php?f=abm0000 9105.pdf&n=別添:【修正・試験情報】平成 29 年度大学入試センター試験の実施結果の概要%2B%2Bコピー.pdf
- 21) 英語4技能試験情報サイト. (2017). 2017年度対照表.英語4技能 資格・検定試験懇談会.

http://4skills.jp/qualification/comparison_cefr.html

- 22) 日本英語検定協会. (2017). 英語 4 技能試験に関するアンケート調査のお知らせ(高校 3 年生限定). http://www.eiken.or.jp/association/info/2017/1114_01.html (2018年1月2日閲覧)
- 23) 横川綾子. (2016). TOEIC 600 点 4 年次進級要件 導入の現況と考察: 小規模理系大学による野心的 な試み. グローバル人材育成教育研究第3巻 第2 号. グローバル人材育成教育学会.
- 24) 文部科学省. (2017). 大学入学共通テスト実施方針. http://www.mext.go.jp/component/a_menu/educati on/micro_detail/_icsFiles/affieldfile/2017/10/24/1397 731_001.pdf

受付日 2018年1月15日、受理日 2018年3月10日